

愛知大学における情報系科目以外でのMoodle活用事例

運営堂：森野 誠之（非常勤）

1. はじめに

愛知大学でMoodleの利用を開始し8年目となり、当初は情報系科目での利用が主であったものが情報系科目以外でも利用が増えている。講義室などパソコンが設置されていない科目もあるため、現状や問題点・要望などを把握するために6名の教員にアンケート調査を行った。その結果を報告する。

2. 設問項目

調査は以下の設問項目で行った。

- ・ Moodleを利用している科目，履修者数，教室の形態
- ・ Moodleを利用し始めたきっかけ
- ・ 授業で使うまでに苦労した点

- ・ Moodleの利用目的
- ・ Moodleを使ってよかった点
- ・ Moodleの不満な点

3. 調査結果

3-1 Moodleを利用している科目，履修者数，教室の形態

表1にMoodleを利用している科目，履修者数，教室の形態をまとめた（教員の敬称は省略する）。300名以上の講義もあれば30名以下の小規模の講義もあり，科目も演習，語学など幅広く利用されていることが分かる。特に300名以上の講義，講義室でのMoodle利用は導入時に想定していなかったため非常に興味深い。

表1 Moodleを利用している科目，履修者数，教室の形態

教員氏名	科目	履修者数	教室形態
西本 寛	生命の科学	390名	講義室
塩津 ゆりか	社会政策	328名	講義室
アンソニー・ヤング	演習Ⅳ	27名	PC教室
小坂 敦子	Reading Ⅲ	40名	PC教室
土橋 喜	社会データ分析入門	59名	PC教室
伊藤 清己	財務諸表論	95名	講義室

3-2 Moodleを利用し始めたきっかけ

--

レジュメを履修者の人数分印刷しても、いつも大量に余ってしまう。紙の無駄を減らすために私個人のウェブサイトでの配布を検討していたところ、Moodle上で配布が可能だということを知り利用を開始した（西本）。

同僚の先生にMoodleを教わりました。そこで講習会に参加して非常に簡単に資料配付ができるだけでなく、小テストの実施もできることがわかったため、利用を開始しました（塩津）。

--

300名以上の講義では資料の印刷と配布が大きな問題であり、教員の負担になっていたことが分かる。Moodleであれば事前に掲示しておくことで学生が印刷することもでき、教員が許可をすればタブレットなどでそのまま閲覧することも可能であるため、学生の利便性も向上している。

--

授業の教材をオンラインにまとめて、様々なメディアとチャットもクラスに導入したかったです（ヤング）。

英語リーディングのクラスで、分からない箇所があるかどうかをクラス全体に尋ねても、反応があまりよいとは言えないこと、また予習状況にかなりの個人差があることに対して、何らかの工夫をし

たいと考えていた（小坂）。

--

語学では双方向のコミュニケーションに課題を感じており、Moodleを使うことで解消できると考えて利用を始めている。昨今の学生はLINEなどのコミュニケーションツールを使うことになっているために授業中に発言することが少ないが、Moodleなどのデバイスを使うことで活発に発言するようになるようである。筆者の授業でもチャットを用いて質問を受け付けているがかなりの発言数がある。

--

学生に授業の復習の機会を与えたかったため。さらには、自主的に学習する姿勢を身につけさせたいと考えたため。Moodleに小テストを組み入れ、自由な時間に何度でも行わせることで、学力の向上を図ることができると考えたため。（伊藤）。

--

Moodleを用いずに反復学習をさせるためには、専用のデジタル教材を購入する必要があるなど障壁が高かったが、Moodleでは標準機能で小テストが実装されているために利用価値が高かったようである。また、自動採点があることと修正も容易なことが利点である。

3-3 授業で使うまでに苦勞した点

--

小テストを実施するために、フィードバック機能を活用しています。この機能の使い方が最初はよくわからず、せっかく小テストをしたのに匿名になっていたこともありましたが（塩津）。

宿題提出のためのワークシートを Moodle 上に置いたのに、学生には「非表示」になっていて焦ったこともあった。使い始めると、ワードでは簡単に開けないファイルが提出される等、予想していなかったケースも出てきた（小坂）。

--

Moodle には教員と学生の権限があり、教員権限では学生に表示される画面と異なるが、分かりづらく戸惑うことがあるようである。教員を学生権限に切り替える機能があり、テスト用の学生アカウントも発行しているので、周知していくことでこのような問題を解決していきたい。

--

以前から使っていた冊子体の教材を PDF ファイルに作り直して使っていますが、教材の内容を作成することにより時間がかかります（土橋）。

設問の数が多いので、小テストの問題作成に手間がかかった（伊藤）。

--

既存の教材の電子化はかなりの負荷の

ようである。このあたりの問題については講習会などで事前に告知しておき、サポートできるような体制にすることが必要であろう。

3-4 Moodle の利用目的

出席管理・教材配布・予復習が主な目的であった。3-2 の内容と重複する部分が多かったため詳細は割愛する。

3-5 Moodle を使ってよかった点

--

小テストの結果をオンラインで管理できるのは、ペーパーテストを行うよりも大変便利である。さらに、分子の 3D モデルを授業コンテンツと関連づけて提示することができるのも便利な点である（西本）。

冊子体の教材やプリントを作成しなくても授業ができるようになり、内容の追加や修正が迅速に反映できるので大変便利です（土橋）。

--

省力化に大きなメリットを感じている教員が多い。インターネット上にデータがあるので紛失や忘れることがないのもメリットであろう。

--

期末試験にその成果が反映されている。積極的に学習するようになった（伊藤）。

--

Moodleでは小テストの受験回数もわかることから成績との関連性もわかる。また、GISMOという機能ではログイン数などもわかることから、成績の良い学生行動も把握できるため教材開発、授業方法の改善にも役立つ。

3-6 Moodleの不満な点

--

Moodleの使い方が分からないときはネットで調べていますが、新機能など解説が少なく分かりにくい部分があり、試行錯誤しながら使うことがあります(土橋)。

問題バンクのエクスポートが不完全な点。画像を入れ込んだ問題を作っても、エクスポートした際に画像が消えてしまうので、インポート後に再度画像を挿入しなければならない(西本)。

フィードバック機能を使って小テストを実施した場合、未受験者はエクセルファイルに反映されません(塩津)。

--

Moodleはオープンソースのソフトウェアであるために常にバージョンアップをしている。セキュリティ面でも最新バージョンを導入する必要があるために、毎年バージョンアップを行っている。このためマニュアルの更新、新機能の説明が追いつかず不満となっているようである。講習会での説明、操作動画の公開などで対応したい。

4. まとめ

アンケート調査の結果2つの課題が浮かび上がってきた。1点目は教材配布、小テスト、課題の回収などの作業的な部分に関しては導入も容易でメリットも多いようであるが、さらなる活用になると様々な問題が生じるということ。2点目はMoodleのバージョンアップの内容を素早く教員に伝えることである。

1点目に関してはサポート側からのこまめなヒアリングを行い改善をしていく。2点目に関しては難しい部分が多いが、前述のように動画での説明コンテンツの作成で対応したい。また、公開されているマニュアルなどを用いるなどして対応する方法も考えられる。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、アンケートに回答いただいた教員各位、アンケート回収のサポートしていただいた情報システム課佐藤氏に、心より感謝申し上げます。